

こんなゴミもありました

五百川峡谷自然検証会&クリーンアップ大作戦
(9月16日；雪谷～栗木沢最上川河岸)

特集／地上デジタル放送

町政スポット／9月定例議会、りんご生産者間交流大会、産業立地推進員

まちの話題／朝日町建設総合組合員が感謝ボランティア

水本区菜の花播種、アップル駅伝、西小立木スクール ほか

広報

あさひまち

2007年10月号

No. 611

朝日町は朝ごはんを食べよう運動を推進します。

特集●地上デジタル放送

2003年に三大都市圏からスタートした地上デジタル放送。このたび新朝日中継局が完成し、当町もいよいよ11月から地上デジタル放送が見られるようになります。（現在試験電波を送信中）

今回はデジタル放送とはどんなものか、見るにはどうすれば良いか、そのほか、難視聴対策などについてお知らせいたします。

このほど設置された新宿館山山頂にある地上デジタル放送用施設(右)と彼方に見える宮宿地区の街並み

新朝日中継局(新宿館山) 11月1日NHK・民放同時開局

地上デジタル放送(地デジ)という言葉は、テレビ等でもPRされており、皆さんも耳にしたことはあるかと思いますが。現在、朝日町の大半のテレビ視聴方法はアナログ放送によるものとなっていますが、それは4年後の2011年(平成23年)7月24日で廃止され、デジタル放送に完全移行することになっています。

デジタル放送になるとテレビがさらに便利になるなどいろいろなメリットがある反面、お金がかかるなどの課題もでてくること予想されます。

地上デジタル放送の具体的なメリットは？

①アナログテレビと比べ画質が格段に鮮明になります。また、音声も雑音がなくなり、テレビ並みの高音質となります。

②字幕放送や解説放送、さ

らに受信機によつては音声速度を遅くすることもできるなど、優しいサービスが充実します。

③データ放送によつて、いつでもニュースや天気予報など暮らしに役立つ情報を見ることが出来ます。

④外出先でも携帯電話やカーナビ等で放送を見ることが出来ます。

地上デジタル放送を見るにはどうすればいいの？

■テレビ・チューナー

まず、現在見ているテレビがデジタル放送対応になっているか確認する必要があります。もしなっていない場合は、大きく分けて2つの方法があります。

1つ目はデジタルチューナー(受信装置)を取り付けること、2つ目は地上デジタル対応のテレビに買い換えること、この二つの方法が主流となります。

前者の方が安価ですが、この場合データ放送など機能の一部が制限される場合が考えられます。また新しく買い換える場合でも、タイプによつて機能が異なるため、どちらが良いか一概に述べることはできません。

■アンテナ

次にアンテナですが、すでにUHFアンテナを設置して、現在のアナログ放送とデジタル放送の受信方向が同じ(新宿館山の朝日中継局)場合は、基本的にそのまま使えると思われます。しかし、UHFアンテナでない場合や現在のアナログ放送とデジタル放送の受信方向が異なる場合はUHFアンテナを新たに設置する必要があります。

いずれにしても専門的な知識が必要になりますので、電器店などに良く相談することが大事です。

おおよその経費としては現在のところ、チューナー設置に2万円程度となっています。

地デジ体験コーナーを設置



地上デジタル放送のきれいな映像と音声を体験していただくため、10月19日まで開発センター1階ロビーに設置されています。

現在のアナログ放送と2台並べて設置されているため、両者の違いがわかります。役場にお出での際は、どうぞご覧ください。

共聴組合(共同アンテナ)等を組織する地域への難視聴対策は？

地上デジタル放送は、現在のアナログ放送よりも視聴エリアが広がると予測されていますが、朝日中継局からの電波だけでは、まだ難視聴地域(見られない地域)は残っています。現在町内には大小14の共同受信施設があり、町民の1割を超える約350世帯がこれを利用しています。また、アナログ放送のときは何とか見えていても、デジタ

ル放送になると見えなくなる区域が今後発生することも予測されています。現在、共同受信施設の整備や管理は各組合が主体となり行なっていますが、今回のデジタル化に伴う既存共同受信施設の改修方法や経費負担については、全国的に各組合や自治体でその対応に苦慮しているのが実情のようです。町では、まず難視聴地域の実態について11月以降詳しく調査し、各組合や放送局と連携しながら対応策

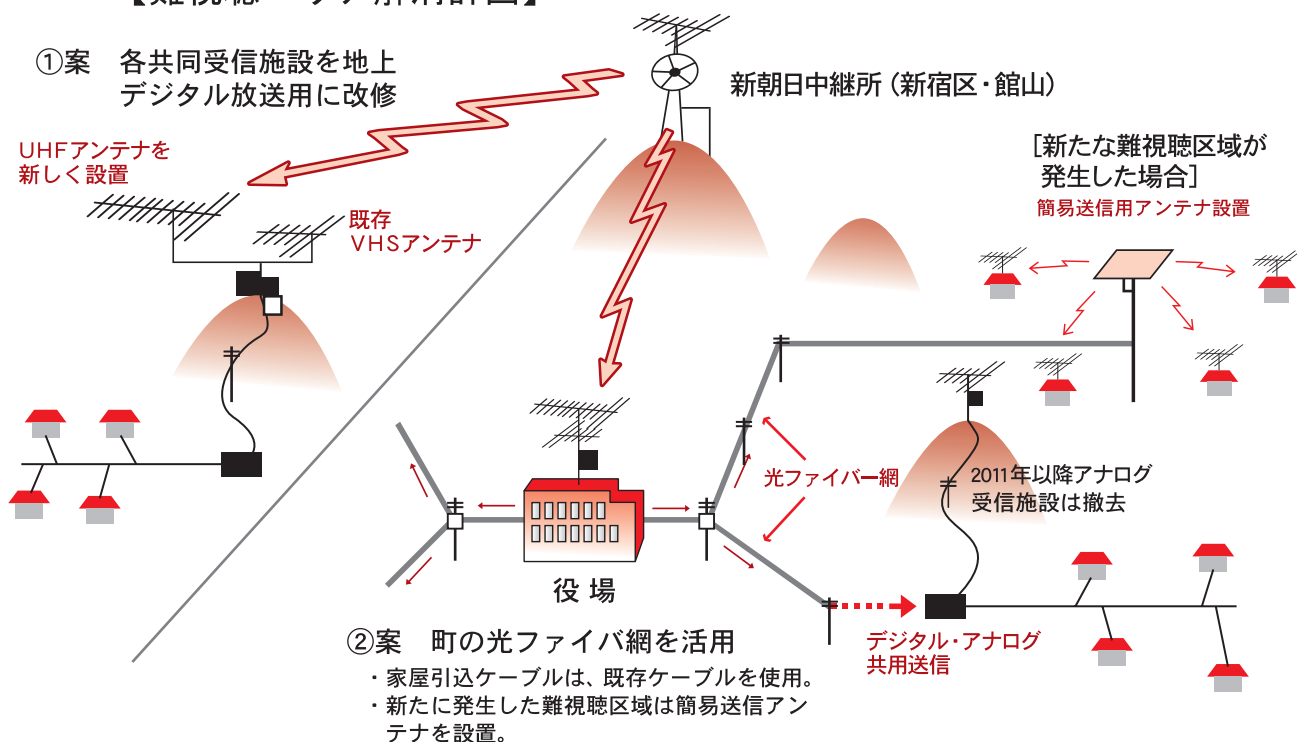


携帯電話のワンセグ放送も視聴可能に

に取り組んでいきます。また、各共同受信施設をこれから各組合が維持管理していくことは、厳しくなりつつあることを考慮し、デジタル放送の電波を1箇所を受信し、昨年度に整備した光ファイバ網を活用し難視聴全域に送信する新しい方法が可能かどうか、検討を重ねているところ です。

テレビは、私たちにとって生活の一部であり、また、それは最も身近な情報収集源です。現在は見ることができないチャンネルがあったり、映りが悪くとも我慢している地域が多々ありますが、地上デジタル放送への移行を機会に、全チャンネルを鮮明に見ることができるよう、地域の方々と町が協力して進めていきたいと考えています。

【難視聴エリア解消計画】



定例議会

9月7日から13日までの7日間の日程で町議会9月定例会が開催されました。

主な議案としては、任期満了となる朝日町教育委員会委員に安藤昭郎氏(西町)が再任されたほか、18年度一般会計、4特別会計、2企業会計決算が可決されました。また、朝日町過疎地域固定資産税課税免除条例の一部を改正する条例の制定、朝日町過疎地域自立促進計画(後期対策)の変更が原案通り可決されました。

そのほか議員発議が1件可決されました。



寄付採納報告



▼防犯灯(取付工事合) 10基

東北電力株式会社天童営業所

所長 石橋 浩 様

株式会社ユアテック寒河江営業所

所長 菅原隆之 様

から

町政報告

■平成19年度の地方交付税

普通交付税は20億4973万円となり、前年度対比で0.2%、340万円の減。臨時財政対策債は1億6085万円となり、前年度対比で9.3%、1643万円の減となり、両方を合わせると1984万円の減。

■平成20年度採用予定の町職員採用試験

7月17日から行政職、臨床検査技師、看護師、薬剤師について募集。その結果、行政職6人、臨床検査技師4人の申し込み。9月16日(日)に1次試験を実施。

■朝日町地域提案型交付金

今年から新たに始まった

「元氣な地域づくり」を支援する制度。総額で1379万円の申請があり、そのうち967万円を交付決定。

■志藤六郎村おこし基金

今年は8件の申請。運営委員会からの答申に基づき、7件に対し合計で219万円を交付決定。



キャンプ用テント(ドキドキ探検隊)

■山形直行バス実験運行

山形市内等の高等学校に通学する生徒の保護者等61人に対しアンケート調査を実施。回答のあった39人のうち19人が利用に前向きな意見。その結果を受け、10月1日から山

形直行バス実験運行を開始。

■携帯電話不感地域解消

町で整備した光ファイバを利用し、今年度中に自然観方面と大暮山・大沼方面にNTTドコモの携帯電話中継局が整備される予定。

■町民税当初賦課額大幅増

2億2012万円となり、昨年度比34.1%、5602万円の増。税源移譲や定率減税の廃止などによる。

■国民健康保険税当初賦課額は微減

2億4585万円となり、昨年度比0.4%、94万円の減。国保加入世帯は1,726世帯(昨年度対比14世帯の減)、被保険者数は3,995人(昨年度対比144人の減)。1世帯あたりの税額は

14万円で昨年度と同額。

■コンポスター購入助成

生ごみの再生利用(リサイクル)を推進し、循環型社会を形成するため、家庭の生ごみを堆肥化する「コンポスター購入」に対して3分の1の補助金を交付。8月末で90個の申込みがあり、町内の指定販売店3店より購入。



コンポスター

■賀詞贈呈

9月15日の老人の日にちなんで、百歳を迎える菅井よつさん



百歳の賀詞伝達を受けた鈴木まつのさん

■りんごの作柄状況

基幹作物の「りんご」については、早生種の「つがる」が夏場の高温の影響により着色は遅れているものの、果肉の熟度が進んでおり盛んに出荷が行われている。



アップル駅伝でも使用された

(沼向)、鈴木まつのさん(松程)の2人に内閣総理大臣からの賀詞と記念品を、また白寿を迎える8人に対し県知事からの賀詞祝品を9月14日にそれぞれ伝達。

■3歳未満の児童手当が一律1万円に改正
平成19年4月1日からの児童手当制度の一部改正に伴い、3歳未満の第1子、第2子の手当が倍増し月額1万円となり、6月に対象者へ支給された。

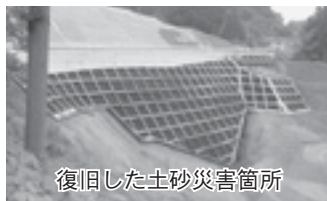
■長根地区農免農道整備事業
10月に完成する法面緑化工事をもって、平成3年の着工以来、全線完了の予定。
(道路は今年4月からすでに共用開始済)

■品目横断的経営安定対策

今年度から始まった同対策事業の加入状況は、中、西、北部3地区の集落営農で225ha、認定農家1名で5haあわせて230haの加入面積。

■主要地方道長井大江線

同路線の大船木地内災害復旧工事については、8月1日に完成し、同日全線開通。



■国道287号和合く宮宿間の道路改良工事は年内全線開通予定

年内開通を目指し、鋭意工事中。進捗状況について情報交換を行いながら、歩行者等の交通安全確保に努める。

■朝日町立病院の取組み

昨年10月より町立病院内に開設した通所リハビリの利用者数は、月延約100人。今後とも病気を治すだけでなく、ケアプラン作成や訪問診察、介護サービスの充実など、予防・治療・介護が一体となった地域包括ケアの推進に積極的に取り組む。

■町民プール利用状況

オープン間もなく幼児用プールに不具合が発生。今季の利用を見合わせることに。

今季は7月21日から8月19日まで30日間開設し、利用者は1,225人（中学生以下1,049人、高校生以上176人）と前年比57・6%アップ。プールの閉鎖が影響。

■町民栄誉賞を授与

8月に行われた全国大会で日本一に輝いた酒田商業高等学校3年の村山仁君（大谷七）と朝日中学校3年の志藤綾子さん（川通）。2人の業績に対し教育長から朝日町町民栄誉賞の内申があり、8月28日に朝日町町民栄誉賞審査委員会を開催。満場一致で町民栄誉賞の贈呈を決定。



町財政へ大きく貢献しています (株)サテライト朝日



平成17年6月に開業した競輪場外車券売場「サテライト朝日」。一部心配された治安面でのトラブルや青少年への悪影響などもなく、開業から2年以上経過しています。

平成19年10月1日現在で全従業員15人中9人が当町からの雇用となっており、その他清掃、警備、食堂運営など委託先の雇用で同社へ就労している人もいます。また、土地・家屋等の固定資産税の面においても町財政へ大きく貢献しています。

ここまでは町内にもたくさんある民間の企業と同様ですが、同社が町にその車券売場を構えることで、各レースの主催者から町に支払われるお金があります。それが「地元対策費」とよばれるもの。各レースの売り上げの1%にあたる金額を町へ支払っていただいています。

この9月に町の平成18年度決算状況がまとめましたが、それによると、昨年度はこの地元対策費として、約1,300万円がレース主催者から支払われており、町ではこの金額を町が重点的に取り

組みたい施策（ソフト事業）に充てる経費として使っています。

また、利用状況については、平成18年度の1年間で合計322日間レースが開催され、その入場者数は69,783人、平均で1ヶ月あたり約5,800人、1日あたり約200人の利用となっています。

競輪は競馬・競艇と同様に「公営競技」に分類され、運営主体は都道府県や市町村などの地方公共団体等です（サテライト朝日の運営主体は福島県いわき市）。そのため、売上げも公的な事業に使われており、私たちの生活に貢献している部分も少なくありません。サテライト朝日の地元対策費もこれと同様の考え。レジャーとして楽しんだ皆さんのお金は、このように町の大事な部分に使われています。

地元対策費を充当している町の施策 (主要なもの)

- ・夜7時までの延長保育…404万円
- ・6歳までの医療費完全無料化(町単独分)…196万円
- ・高齢者元気クラブ…211万円
- ・子育て支援センター…236万円
- ・結婚対策…76万円
- ・特産品開発と起業家支援…100万円
- ・小中学生の学力向上研究委託…174万円

りんご生産者間交流会



意識改革の必要性や現在の販売数量の問題など、これから生産者として考えなければならぬことを鋭く指摘しました。

その後は、荘銀総合研究所の細野理事長（元県農林水産部長）をコーディネーターとして、市場関係者5人、生産者3人、県、町各1人によるパネルディスカッションを開催。「りんごを核とした農業の振興」「産地としての品質技術向上と新品種導入」「市場、仲卸、小売、消費者等のニーズの変化と対応」「産地としての体制づくりの強化策」の4つをテーマに、活発な意見交換がなされました。

今後は、より掘り下げた意見交換を行う為に、来年の農閑期に再度交流会を開催すること、を約束し、閉会しました。



朝日中1年生が定住促進ビジョンを学ぶ

朝日中1年生が、現在地区毎の「町長と語ろう」の中でも説明されている町の「定住促進ビジョン」についてこのほど学びました。

社会科の「地域学習」の単元の一環。はじめに生徒たちが考える町の振興発展について班ごとに発表した後、政策推進課の職員がスクリーンに映し出される内容を説明しました。育・職・住・アクセスの4つの柱からなるこの政策。生徒の皆さんは、その中でも、今後の自分たちの進路にも直接影響する可能性がある「山形直行バス」に特に興味を持っていたようで、終了後も様々な質問が飛び交いました。

事前の調査では1年生83人のうち73%の生徒が町を「好き」と答えている一方、将来住みたいかの問いに対し、明確に「住みたい」と答えた人は35%にとどまっています。両者の開きを解消するためにも定住促進ビジョンの確実な遂行が求められます。



山形直行バス実験運行開始

10月1日、山形直行バスの実験運行が開始されました。来年3月10日までの平日（但し、12月22日から1月6日を除く）に朝片道1便を運行します。山形方面への通学、通院、買い物や新幹線利用の際など、是非御活用ください。

また、高校等への通学に利用される方については、お得な通学定期券（1ヶ月：5,000円、3ヶ月：14,000円）を役場1階総合窓口で受け付けています。

なお、詳しい経路や運行時刻、運賃等は広報あさひまち9月号や町のホームページをご覧ください。

☎ 政策推進課戦略推進係 ☎ 67-2112

**乗車1回500円、平日毎朝運行
通学・通院・上京等にご利用ください**

心を込めたものづくり

10月8日、朝日中3年生と保護者の皆さんで、朝日町ワイン城敷地内のぶどう畑において、親子体験学習ぶどうの収穫作業をしていただきました。当日はあいにくの雨模様で、大変難儀を掛けましたが、この日に穫れた約1トンのぶどうを材料に今後ワインを製造し、5年後の成人式の日にプレゼントすることにしております。

朝日町ワインは、山梨県で行われる国産ワインコンクールにおいて、4年

連続で入賞しています。今年は銀賞一点、銅賞二点を獲得し、特に銀賞を受賞した「朝日町ワイン・ロゼ」はロゼ部門の「最優秀力テゴリー賞」に選ばれました。

何でもそうではありますが、ものを育て、作っていくということは、それを育て作った人の気持ち、そのまま製品に現れてくるものです。

朝日町ワインの原材料となるぶどうは、ほぼ百パーセントが町内で育て上げられたもの。生産者の皆さんの愛情はもとより、(有)朝日町ワインによる丹

精進めた仕込み作業が相まって、初めてこのように素晴らしい評価を得ることができたものと思っています。

朝日町は「りんごワインのまち」をキャッチフレーズとして、町づくりを行ってきました。このようにコンクールで高い評価を得たワインとともに、百年以上の歴史の上に、多くの先人が苦勞に苦勞を重ねて築き上げてきた朝日町のりんごも、東京などの市場において高い評価を得てきました。真面目に、心を込めてものを育て、そして作ってきた朝日町民のやる気とがんばり

朝日町長 鈴木浩孝

産業立地推進員を委嘱



対外的な町のPR活動や、今後町へ企業を誘致するための情報収集・提供を依頼する町産業立地推進員が新しく委嘱され、その委嘱状交付式が10月5日行われました。

委嘱を受けた渡辺裕一さん(大谷2/株渡辺精機専務取締役)は

「まだまだ地方を取り巻く経済状況は厳しいものがあり、企業誘致も大変だとは思いますが、精一杯努力したいと思います」と語ってくれました。

委嘱を受けたのは以下の方々(敬称略) 柴田美喜雄(株式会社アサヒ技研代表取締役)、渡辺裕一(株式会社渡辺精機専務取締役)、清野義弘(株式会社マツムラ山形工場専務取締役)、岡崎裕(東亜メッキ株式会社代表取締役)、松田正行(東海県人会/愛知県在住)、安藤藤四郎(関西山形県人会/大阪府在住)、滝川清一(Asahi自然観取締役) 以上7人

朝日町認知症予防フォーラム



認知症について正しく学び、地域で支える事を目的として、「朝日町認知症予防フォーラム」が9月28日創遊館で開催され、各区長さんや民生委員など約150人が参加しました。

講演では、千歳篠田病院(山形市)精神科医長奥山直行氏が認知症の症状や薬による治療などを紹介。また、その後のサポーター養成講座ではグループホームあじさい(大江町)

事務長伊藤茂氏らが、認知症の方を地域で見守る意識の必要性を改めて指摘し、「地域の一人一人が認知症の方の『心の杖』になってほしい」とアドバイスしました。

サポーターとは、特別なことを実践する人ではなく、認知症を理解した、その「応援者」。認知症サポーターの証である「オレンジリング」を手にした参加者は、今後地域で認知症の方やその家族の応援者となり、それぞれ活躍されることでしょう。

朝日町交通安全町民大会



町交通安全町民大会が9月25日創遊館で開催され約300人が出席しました。

オープンセレモニーで町内3保育園児ももしかクラブによる歌と踊りが披露された後、交通安全活動にご尽力いただいた、多田しげさん(大町)と白田みや子さん(大谷2)にそれぞれ功労賞が贈られました。

交通安全講話では、寒河江警察署結城交通課長が夜間の事故防止のため反射材の効用などについて、暗闇を再現してわかりやすく説明。協議会では、日没が早まるこれからの時期、夜間外出には反射材を身につけるようPR活動を強化していく予定です。



表彰を受ける白田さん



にぎわう和合①産直和合

まちの話題



にぎわう和合②和合みどりの駅

朝日町建設総合組合会員が一人暮らし高齢者に「感謝ボランティア」

(10月8日／町内各家庭)

熟練の技能を無償で提供



町建設総合組合（畑俊美組合長：総会員151人）による「感謝ボランティア」が10月8日行われ、24人の会員が一人暮らしの高齢者のもとで、いろいろな作業にあたりました。

この取組みは、日頃仕事を受けている町民への感謝と、地域工務店や各種職人の存在をアピ

ールすることなどを目的とし、主に75歳以上の一人暮らしの方を対象に、建具の修繕や庭木の手入れ、不用品の処分など、同組合員の熟練の技能を生かした作業等を無償で行ったものです。

同組合の阿部正典事務局長は「一人暮らしの高齢者の場合（私達が）簡単にできる作業も困難になってきます。今回23人の方々（うち女性が21人）からのご依頼があり、対応させていただきましたが、

多くの方々から喜んでいただきました。作業依頼取りまとめの際に協力してくださった民生児童委員の方々と、町に感謝します」と語っていました。



庭木の剪定を依頼した長岡たまのさん（太郎一）は「2年前に夫が亡くなってから、なかなか手入れが行き届きませんでした。迷惑をかけて申し訳ない気持ちもありますが、大変ありがたいです」と語りました。



水本区菜の花播種 ～菜の花が取り持つ、住みよい環境づくり大作戦～

(9月30日／水本地内の農地)

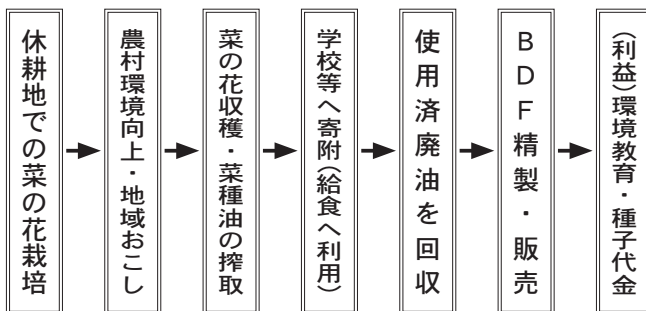
環境対策と地域おこしを実現

9月30日水本区内の休耕地を利用した菜の花の種まき作業が行われ、来春のきれいな景色を夢見て区民ら約30人が約1haの農地に種をまきました。

この計画は山形県トラック協会からの提案。休耕地を利用して育てた菜の花から食用油を採取し、その廃油からバイオディーゼル燃料（BDF）を搾取。それを会員らが使用することで循環型の社会を形成し、同時に地域のむらおこしを行おうというものでその過程は右の通りです。

同協会の伊藤常務理事は「最近の自動車業界は車輛の環境対策だけでなく、様々な社会貢献活動を行っています。当協会も山辺町畑谷地区に5年間で4千本の広葉樹を植林し、『トラックの森』を作りました。この菜の花作戦もそういった取組みの一環です。BDFを使用したトラックを走らせることで少しでも大気中のCO₂（二酸化炭素）を削減し、それと同時に水本地区の元気づくりのお手伝いができれば幸いです」と語りました。

《本計画のイメージ》



第24回アップル町民駅伝競走大会 宮宿Aチームが5年ぶり2回目の優勝

(10月7日／町内一円)



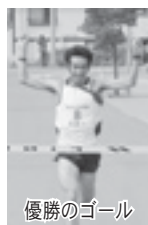
多くを苦しめた長根農免道の起伏



春日沼の風景は楽しめましたか？



声援ありがとうございました



優勝のゴール



りんご畑の中を激走



最年長宮本建一さん(62歳)



中沢・玉ノ井チーム2位の原動力 志藤3兄弟

10月7日恒例のアップル町民駅伝競走大会が開催されました。

今年はコースの大幅な変更を実施。次の道のりを10人のタスキリレーでつなぎました。

和合小をスタート→大谷→大暮山方面へ→馬神ダムから長根農免道→八ツ沼→西船渡→常盤→太郎→松程→常盤→西船渡→創遊館ゴール。

新コースの長根農免道では3区間が設けられ、これまでにない起伏に悪戦苦闘しながらも全員が完走しました。

宮宿Aチームが5年ぶり2回目の優勝、また、中沢・玉ノ井チームが過去最高の2位に入るなど、時代の変化をうかがわせる結果となりました。



優勝した宮宿Aチームの皆さん

【総合】①宮宿A②中沢・玉ノ井③大谷風④和合水上⑤上郷⑥三中

【区間賞】1区：菅井拓人(宮宿A) 2区：五十嵐大義(中沢・玉ノ井) 3区：早坂佑太(大谷風) 4区：堀浩一(中沢・玉ノ井) 5区：清野嵩悠(宮宿A) 6区：安藤友哉(宮宿A) 7区：浅井翔太(宮宿A) 8区：志藤陽平(中沢・玉ノ井) 9区：白田恵里華(大谷風) 10区：志藤雄人(中沢・玉ノ井)

西五百川小 「立木スクール」

(10月10日／立木・あとリエマサト)

学年別に様々な創作活動を体験

西五百川小学校の児童が、旧立木小で創作活動を行っているあとリエマサトの皆さんと一緒に活動を行う、同校の「立木スクール」が10月10日行われました。



サポートスタッフら13人の手ほどきを受けながら、午前中は学年別に様々な創作活動を体験。このうち6年生は午後からのオリエンテーリングに使用する賞品を班ごとに製作しました。乳飲料の容器を使って昆虫を作った阿部幸大君(写真左／西船渡)は「てんとう虫、クモ、ホタルなどを作りました。針金をねじって足をつけるところがおもしろかったです」と語っていました。



約30人で軽トラック2台分のゴミを回収

山形県を縦断して流れる、県の母なる川最上川。その229キロに及ぶ河岸のうち、最も美しいとされている景観が、切立った断崖が続く、朝日町の五百川峡谷と言われています。その景観をボート・カヌーに乗って検証し、同時に陸上(河岸)と



宮宿字清水付近で金網状のゴミを回収する参加者

水上(カヌー)の両方からごみ拾いを行う催しが9月16日開催され、30人が参加しました。

栗木沢のカヌーランドを中心に活動を行っ

ている愛好家チーム・ソイル・ダブルプレイ(仙台市)が主催。NPO朝日町エコミュージアム協会が共催となり、自然検証会の講師は立木在住の自然写真家姉崎一馬氏が務めました。

そのうち、水上班のボート・カヌー隊は雪谷河岸を出発した後、野鳥や植物に関する姉崎氏の説明を受けながら、川下りを楽しみました。その途中では放置された自転車を見つけ、4人がかりで栗木沢カヌーランドまで運ぶ一幕も(表紙)。

半日の活動で軽トラック2台分ほどの量のごみが集まり、参加者はその後の準備された芋煮でお互いの労をねぎらいました。



外資系製菓会社の社員がりんご作業体験

(10月10日／和合平地内果樹園)

企業としての社会貢献活動



高齢化・過疎化が進む中山間地域に足を運んで農作業を手伝い、その交流活動を通して、そこに住む人々の暮らしを応援する、製菓会社「アストラゼネカ株式会社」(本社:大阪市)による「高齢化する村を応援するプロジェクト」の一行が、和合平の果樹園でりんごの葉摘み作業を行いました。

同社はCSR(企業の社会的責任)を重視している会社で、この取組みは昨年から行っているもの。全社員3000人が全国50カ所の農村に分かれてボランティア活動を行っています。昨年に続いてNPO



法人全国棚田ネットワーク(東京都)からの紹介を受け80人の方々が当町を訪れました。

「日頃あまり触れることのない、農作業を通して学ぶことはたくさんあります。園地の皆さんに感謝します」と参加者は語りました。

詩的な場所日本研究会来町

(10月9日／榎平の棚田ほか)

GREAT! 榎平の棚田に感動



人々が暮らす空間には、その地域固有の自然や文化、生業、そして物語が存在します。それら、人々が郷土の誇りや宝として大切にしたい場所、それを「詩的な場所」と位置づけ、独カッセル大学で研究を行っているデレトフ＝イブセン教授の一行(8人)が10月9日朝日町を訪れ、大沼の浮島や榎平の棚田、空気神社等を巡りました。

2004年から共同研究としてその片翼を担っている「詩的な場所日本研究会(座長:東北芸術工科大学の高野公男教授ら15人)」の皆さんがコーディネイト役として実現したこの企画。県内では当町のほかに大蔵村肘折や出羽三山、山寺などを巡る予定となっています。

イブセン教授は「(朝日町は)私が生まれ育ったオーストリアのチロル地方によく似ている気がします。空気も澄んでいてとても癒される感じがしました」と語っていました。

朝日町ワインの多彩なイベント

第28回朝日町ワインまつり(9/23)

恒例の朝日町ワインまつりが9月23日開催され、町内外から1,200人のワイン愛好家で賑わいました。

会場を上郷ダムから創遊館芝生広場に移して2回目の開催。大江町から来たという庄司恭子さん(写真右端)は「以前に比べシャトルバスに乗らなくてもいいため、参加しやすくなった気がします。ワインやダチョウ料理など朝日町の味覚を満喫したいと思います」と語りました。



2007オーナーワイン収穫祭(10/6)

葡萄の木オーナーワイン制度「収穫祭」が10月6日開催され、同制度の会員である130人とその家族あわせて約330人が参加しました。一口13,000円から会員になれば、この日のぶどう摘みや収穫祭を体験することができます。

爽やかな秋晴れの天候にも恵まれ、参加者は白田和寛さん(栗木沢)がこの日のために丹精込めて育てた白ワイン原材料の代表格ぶどう「シャルドネ」を収穫。その後、バーベキューを食べながらこの秋仕込みたてのワインを味わい、秋の1日を満喫しました。



朝日中3年生親子作業(10/8)

朝日中3学年の親子行事が10月8日ワイン城で開催され、75組の親子がぶどう収穫を行いました。

収穫したぶどうからワインが造られ、5年後の成人式のときに初めて口にするお酒(ワイン)としてプレゼントされるというこの企画。今年で5回目の開催です。

参加者の遠藤知佳さん(真中)は「5年後の成人式のときの同窓会が楽しみです。ワインのおいしさがわかる大人になりたいです」と語りました。



金婚祝賀会

(10月2日／Asahi自然観)

次はダイヤモンド婚を

結婚50年の節目をともに元気で迎えられた夫婦を対象にした金婚祝賀会が10月2日自然観で開催され、対象夫婦42組のうち38組が出席しました。

町社会福祉協議会長の鈴木浩幸町長が「これからも健康で仲睦まじく、次はダイヤモンド婚をめざして長生きしてください」とあいさつ。出席者全員に賀詞が贈呈されました。最後に代表して岡崎源吉さん(下芦沢)が謝辞。「50年を振り返ると、お互い飽きることもなく、けんかをしながらよくやってこれたものだ。感慨深いものがある。祝賀会の開催に感謝したい」と、苦労話などを交えながらしみじみと述べられました。引き続き祝宴が行われ、大いに盛り上がりました。



渋谷区の小学生児童がりんご体験作業

(10月6日／和合地内果樹園)

ハチ公絵柄のシールを貼る

10月6日に東京都渋谷区の小学生約30人が町を訪れ、りんごの模様付けシールの貼り付け体験を行いました。

10年ほど前から同区へりんご、サクランボ、ぶどう等を提供している山形県青果物基金という団体の仲介で来町。同基金と交流のあった渋谷飲食組合が主催し、経費面は渋谷区で支援しています。

児童はじめに和合のJAさがえ西村山朝日果実流通センターでりんご選果や箱詰めの過程を見学。その後同センターの隣にある菅井正人さん(沼向)のりんご園で模様付けシール(渋谷ちなんだハチ公)の貼り付け体験を行いました。来月11日には今回の一行に江東区や杉並区の児童を加えた一団が再度来町し、このりんごの収穫が行われます。





みんなのひろば



復活当時の広報誌

毎年8月17日に町指定文化財の水口十一面観音堂(常盤)で行われる祭礼で、奉納の舞として踊られている「弥十郎田植踊り」。この伝統芸能を受け継いでいるのが「弥十郎田植え踊り保存会」のみなさんです。同保存会が発足したのは昭和60年頃のこと。その当時、田植え踊りは同区内の阿部孝右エ門さん(現在91歳)と阿部秀雄さん(故人)が先代から受け継いでいましたが、実際には踊られていませんでした。その2人



後列左から長岡浪榮さん、長岡米吉さん、白田吉蔵さん、前列左から伝授者の阿部孝右エ門さん、区長の阿部健一さん
もう一人のメンバー大井幸一さんは都合により欠席

今輝いて

弥十郎田植踊り保存会

代表 長岡米吉さん(常盤)

から長岡さんのもとに「田植え踊りを残していきたい。是非受け継いで欲しい」という強い依頼があり、その思いを受け有志を募り保存会が発足。37年ぶりに踊りが復活した様子を当時の広報誌は伝えていきます。現在のメンバーは4人で、4月から8月の祭礼まで月2〜3回の練習を行っています。

今では、メンバーもほとんど踊りを覚えて慣れたものですが、結成の当初は弁当を持って観音堂の境内に集まり、街灯1つの灯りのもと毎晩のように練習したとのこと。

また、結成して2、3年目にはその由来が同じと思われる、寒河江市の「日和田弥十郎花笠田植踊り(県指定無形民族文化財)」を視察。ビデオに撮ったり歌い本をいただいで歌い文句を確認したり、また、先方

から見に来ていただいたりするなど交流をしながら勉強しました。

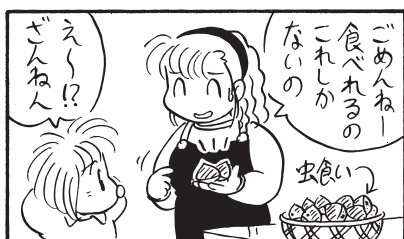
古くなった衣装をお母さん方に繕ってもらったり、志藤六郎基金の支援を受け、囃子楽器をそろえるなど、「常盤区はもろろん様々な方々の支えがありこれまで活動してくることができた」と話してくれました。

「これまでに20年ほど、踊りを受け継ぐために頑張ってきましたが、お祭りや日頃の練習などでみんなが集まる機会にも増え、賑やかに楽しくやってこれました」と話す長岡米吉さん。

これからの目標については、「最近では観音様のお祭も、田植え踊りの他に、何組かの歌や踊り、演奏などもあり、賑やかになってきました。それらに負けず今後も盛り上げていきたい」と語り、さらには「次の世代の若い衆からも参加してもらい、そして引継いでいきたい。できれば小中学生からも参加してもらい地域の伝統芸能として伝えていければ」と語っていました。

地域の古き善き伝統を受け継ぎ、それを心より大切にしている皆さんです。





大谷三
白田 太一さん
魅奈子さん
怜蘭ちゃん



3年前、太一くんのふるさとである朝日町大谷に居住を移したのは、最愛の愛娘、怜蘭ちゃんのためを思っていたことでした。

今年4月、わかば保育園に入園した怜蘭ちゃん。今ではたくさんのお友達が出来、「縄跳びが楽しい」と楽しく毎日を過ごしているそうです。先日の運動会では、かけっこで1位になり、ご夫婦としても、この上ない幸せを感じた瞬間だったそうです。

休日の過ごし方も怜蘭ちゃん中心。「家族ドライブは県内外を問わずどこにでも行きます」と夫妻声をそろえて話します。中でも、今年5月の連休に出かけた東京ディズニーランドは格別だったそうです。しかし怜蘭ちゃんが“恐怖”のジェットコースターで楽しむ姿は想像していなかった様で、成長による“幸せの1ページ”がまた増えたようでした。

また、「誘われたから」とは言いながらも、消防団・若妻会など地元の活動にも積極的に参加し地域に溶け込もうとしている二人。近所に住む同年代も比較的多いため、怜蘭ちゃんはもちろん、そんな二人を皆あたたかく迎えています。

取材後、寒さを感じる秋の夜の帰り際でしたが、怜蘭ちゃんからお菓子を頂きました。「さわやか家族」ならではの温かい“心”を収穫してきたところです。

▼匿われている深い夢／岩井志麻子▼渾身／川上健一 ▼ゾラ・一撃・さようなら／森博嗣 ▼狸穴あいあい坂／諸田玲子 ▼挑戦巨大外資 上、下／高杉良 ▼いつか陽のあたる場所で／乃南アサ ▼湿地帯／宮尾登美子▼1950年のバックトス／北村薫 ▼やっつけられない月曜日／柴田よしき▼リバーズ／石田衣良 ▼大人になるための社会科入門／乙武洋匡 ▼楊令伝／1, 2／北方謙三 ▼鹿男あをによし／万城目学 ▼おうちでダイエットキャンプ／しばさきよこは ▼かんたん！かわいい！012歳児の布おもちゃ&布えほん／いしかわまりこ ▼和のしきたりー日本の暦と年中行事ー／新谷尚紀 ▼病気になるない生き方2実践編／新谷弘実 ▼夜明けの縁をさ迷う人々／小川洋子 ▼あなたの呼吸が止まるまで／島本理生 ▼ゆうちょ銀行ー民営郵政の罪と罰ー／有田哲文 ▼男の子女の子名前事典／国協泰秀 ほか



田辺聖子の恋愛小説、3部作復刊「言い寄る」「私生活」「母をつぶしながら」
人は自分が愛したものは忘れても、自分を愛した人は忘れない。結婚生活から「出所」してふたたび一人になった乃里子ですが・・・。女たちに読み継がれ男たちを震撼させた快作が30年の時を経て復刊。



女性上位の時代だからこそ、従来の男性とは異なる価値観、よき女らしさを、職場や家庭に持ち込んでほしい。ビジネスから装い方、話し方、恋愛に至るまで、女性としての振舞い方を具体的にアドバイス。

「女性の品格」
坂東眞理子著

町立図書館おすすめ

今月話題の本

みなさんからのおたよりでつくるコーナーです。

町に対する意見や要望、提案みなさんの周りでの出来事や話題
日頃感じていること、イラスト、質問などお待ちしております。

■あて先／〒990-1442 朝日町大字宮宿1115番地
朝日町役場 政策推進課 地域情報係
(電話：67-2112 ファックス：67-2117)

■Eメール／inform@town.asahi.yamagata.jp
■URL／http://www.town.asahi.yamagata.jp
■携帯サイト／http://www.town.asahi.yamagata.jp



町民の 声

町立病院におほめの便りを 2通いただきました

問

ある日の午後、町立病院での出来事。90歳は過ぎたであろう一人のおばさんがやってきました。看護婦さんが問診すると、家族は仕事に出かけ、日中は毎日一人であるとのこと。昼頃から具合が悪くなったようでしたが、いろいろと話をしているうちに、突然一言「何だか看護婦さんと話したら具合良くなったみたいだあ」。すると看護婦さんも「〇〇先生に診てもらうともっと良くなるかもしれないよ」との優しい心遣い。なんとうれしいことでしょう。65歳以上の高齢者が町民の33%を越えた今、高齢者が安心してかかる病院が近くにある。そして、どんな小さなことにも親身になって取り組んでくれるスタッフがいる患者者にとってこんなうれしいことはありません。院長先生、総看護師長はじめ、病院全体が地域の実情に即した療養に努力されていることに感謝します。朝日町立病院がこれからの町にはなくてはならない存在であることを心から感じています。

【匿名】

問

夏の終わり、体調を崩し、久しぶりに朝日町立病院に入院しました。10日間にわたって絶食、24時間点滴という厳しい期間を乗り越え、散歩ができるまで回復した頃のこと。毎朝、病院内の廊下を歩いていましたが、その時見つけたのが「朝日町立病院を花でいっぱいにし隊」という看板。外來待合室前に見事な美しい花壇がありまして。紫・ピンク・赤・白と色鮮や



花でいっぱいにし隊による看板と花壇

かに植えられた花々。誰もいない待合室の椅子に一人座り、しばらく眺めるのが日課でした。花を見て心が明るく癒されました。

廊下も掃除が行き届いてピカピカ。11日目からの食事もバランスが良く、油分の少ないごはん、みそ汁、煮物、魚、果物と、日替わりメニュー。彩りも良く美味しくいただきました。家も近いので夫も毎朝夕顔を見せてくれて助かりました。担当医、看護師の皆さんのフレンドリーな笑顔、2週間本当にありがとうございました。心より感謝いたします。

【阿部康子さん(常盤)】

答

お手紙ありがとうございます。うれしく拝見させていただきます。

今後とも、町民の皆様のために、患者さんの立場に立つ思いやりのある病院になるよう努力して参ります。

また、朝日町立病院は「救急指定病院」になっており、急患の方は24時間いつでも受診可能ですので、夜間の場合でもご安心下さい。町内唯一の病院であり、救急はもちろんのこと、予防・治療・介護の全てに関わる「町になくてはならない病院」として、更なる地域医療の向上に努めていきたいと考えております。

【朝日町立病院】

西村山中学校新人総合体育大会(9/22~23)

20年ぶりの団体4種目優勝



3年ぶりに優勝した男子バスケットボール部



18年ぶりに優勝したソフトボール部

【団体】①男子バスケットボール①ソフトボール①男子剣道①女子剣道②男子卓球③女子バスケットボール

【個人】=柔道=▽男子50kg級①佐竹達貴▽同55kg級②海野勇也=剣道=▽男子①富樫龍優③白田裕樹③布施雅也▽女子①阿部円香②白田瑠璃=ソフトテニス=③多田一央、渡辺泰基組



平成19年(2007年)

■ 9月1日～9月30日届出

**すこやかに**

区 名	出生児氏名	性別	保護者名
大谷四	白 田 輝 稀	男	信一・直子
常 盤	鈴 木 恋 々	女	弘治・理沙
新 宿	今 井 慎 吾	男	正則・久美子
西 原	峯 田 青 葉	男	猛・葉子
沼 向	佐 藤 結 菜	女	貴志・恭子

**おしあわせに**佐 竹 厚 則 (常盤)  松 岡 美 幸 (村山市)**やすらかに**

区 名	死亡者氏名	世帯主名
元 町	澁 谷 榮 藏	重 雄
本 町	村 山 六 郎	し て
宿	相 座 幸太郎	ア エ
舟 渡	堀 惣次郎	福 治
前田沢	長 岡 敏 子	勉
常 盤	大 井 宏	重 宏
小 原	峯 田 勝 夫	みつゑ
新 宿	今 井 豊	せ し
大 沼	小 林 フクエ	貞一郎
常 盤	佐 竹 きよゑ	健 一

掲載を希望しない方は、届け出
の際にお申し付けください。

人口と世帯数

●平成19年9月30日現在
人 口 8,526人(減6人)
男 4,219人(減5人)
女 4,307人(減1人)
世帯数 2,544戸(増2戸)
()内 前月比

小林桃さん(西小5年)がテニスで東北大会出場

左が小林桃さん

寒河江Jr. ソフトテニスクラブに所属する小林桃さん(西五百川小5年)が8月に行われた山形県小学生小嶋・佐藤杯(テニス)大会(ダブルス)で見事2位に入賞し、10月7日に福島市で行われた東北大会に出場しました。

数年前、同クラブのコーチに桃さんの父親・勝典さんが就任したのをきっかけにして桃さんも入会。現在週4回の練習をこなしています。同クラブには朝日町から桃さんとその兄弟のほか、安藤力哉君(大町)も通っています。

「テニスは練習も試合もとにかく楽しいです。今はサーブが苦手なので、うまくなるようにがんばっています」と少し、はにかみながら語ってくれました。

朝日町の秋のみどころがテレビで紹介

10月2日、朝日町において山形放送の旅番組「やまがた発!旅の見聞録」の収録が行われ、リポーターがワイン城、りんご温泉、産直和合、樺平の棚田などを訪れました。

中でも、ワイン城では、同社の白田部長(写真)がワインの生産工程を案内したほか、山形セレクション認定ワインの紹介も行いました。

この収録の様子は山形放送(YBC)で10月20日午前9時25分から放映されますので、皆さんどうぞお見逃しなく。

**各地で花々が狂い咲き 猛暑が影響?**

大谷小に咲いたサクラ

9月から10月にかけて、各地から季節外れの花だよりが続けて寄せられました。

大谷小学校構内ではオオヤマザクラが開花。同校職員が最初に見つけたのは9月25日頃とのことでしたが、取材に伺った10月5日でも30程度の花々が可憐に咲いていました。

また、りんご温泉でも構内のツツジが季節外れの花を咲かせました。支配人の海野信雄さん(宇津野)は「お客さんからの指摘に驚きました。きれいなのは結構ですが、異常気象や冬の降雪量が心配です」と語っていました。



りんご温泉のツツジ

わたしの作品



七十七歳二人展(ハガキ絵・刺し子) を開催



阿部 良子さん

(右／元町／ハガキ絵)

鈴木 たかさん

(左／西町／刺し子)

9月26日から10月8日にかけて、創遊館ギャラリーにて「七十七歳二人展」と銘打った作品展が開催され、13日間の開催に300人が訪れました。

昭和5年生まれの阿部良子さんと鈴木たかさん。共に昔は小学校で教鞭を執っており、さらに定年前でありながら、たまたま同じ年にそろって退職と、偶然にも同じような道を歩んできたお二人。そのため昔からの朋友で、今年めでたく喜寿を迎えたことから、その記念にと今回の催しが開催されました。

「退職後の第二の人生を心豊かに送りたい」共にそう考え、刺し子の女性文化教室や、絵画のサークルに入った二人。上達は二の次と考え、とにかくあせらず楽しんでやっていこうと今まで続けてきたそうです。

お二人とも「これから、自分の活動をマイペースでゆっくりと続けていきたいです」と語ってくれました。

情報を発信する側が、受ける側にもあります。今回の特集はその受ける側に立ったもの。当町では昨年、通信（インターネット）分野における情報格差を「光ファイバー」という武器で撃退したばかりですが、今度は皆さんにとつてよりかわりの深い、放送（テレビ）の分野で「映る・映らない」の情報格差が起る可能性があります。この難敵も朝日町の伝家の宝刀「光ファイバー」で撃退したいものです。（サクク）

春夏秋冬

編集後記

今月号は町外からの様々な団体や、各種イベントに訪れる町外者の様子を多く取材しました。人口が1万人にも満たない朝日町ですが、東京都渋谷区や大阪の製薬会社、そしてドイツの大学等から、様々な人が訪れています。この事実は町民皆が素直にうれしく思うのではないのでしょうか。このようにいろいろな人が町を訪れる時代。裏を返せば、各地でいろいろな情報を発信している成果とも言えます。